

より近く より深く より前へ

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA

県本部通信

2016
April

No. 169

4

特集

平成28年度

全農群馬県本部組織機構図

次期3ケ年（平成28～30年度）

ならびに平成28年度事業計画書



JA全農ぐんま



私たち全農グループは、生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

事業のうごき 4

JA群馬担い手サポートセンター

- JA生産販売計画の実践支援
- 営農指導機能強化支援
- 農業経営管理支援
- 法人等担い手支援
- 出向く営農支援体制の強化と活動支援
- JA-TACの人材育成
- JAの野菜振興取組支援
- 農産物の安全・安心対策

畜産農産部

酪農畜産課

- 生乳の計画生産の推進
- 初妊牛導入推進
- 素牛導入推進
- 種豚導入推進
- 渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進
(優良ET卵産子の活用促進)

米麦特産課

- こんにゃく荒粉・精粉販売推進(入札の実施)
- きのこ種菌当用推進

園芸部

園芸販売課

- 共計ほうれん草販売 (周年)
- 共計チンゲンサイ販売 (周年)
- 共計味にら販売 (周年)
- 共計山うど販売 (4月末日迄)
- 共計ふき販売 (5月末日迄)
- 共計ブリックスナイン販売 (6月末日迄)
- 県統一規格共計きゅうり販売 (7月末日迄)

販売促進課

- 春野菜販売促進
- もやし類・加工野菜販売促進
- 花き類販売促進

園芸資材課

- 春夏用出荷資材予約・当用推進
(ほうれん草・きゅうり・ふき他)
- 春夏用青果物段ボール予約・当用推進
- 農ビ・農ポリマルチ予約・当用推進
- 春夏用野菜種子推進(ほうれん草・枝豆・とうもろこし他)

生産資材部

- 売出し・フェアの実施
 - ☆花木流通センター
 - 4月8日(金)～11日(月) 春一番園芸フェア
 - 4月15日(金)～18日(月) 春の菜園フェア
 - 4月29日(金)～5月8日(日) ゴールデンウィーク菜園フェア
 - ☆愛菜館
 - 4月8日(金) 18日(月) 28日(木) 8の日お米特売
 - 4月6・13・20・27日(水) 水曜肉特売日
 - 4月29日(金)～5月8日(日) ゴールデンウィーク菜園フェア協賛セール
- 造園工事推進

肥料農業課

- セルフブレンド推進
- 水稻肥料推進
- 水稻農薬推進
- 大型規格茎葉処理除草剤推進

生活部

生活課

- 太陽光発電推進 (周年)
- 全農日本のお茶ペットボトル推進 (周年)

葬祭総合課

- 会員獲得募集の推進
- 生花利用拡大運動 (周年)

施設住宅課

- 賃貸アパート・個人住宅推進 (周年)
- カクイチ物置・広スペースハウス推進 (周年)
- 住友不動産(株)「新築そっくりさん」推進 (周年)

自動車燃料部

石油課

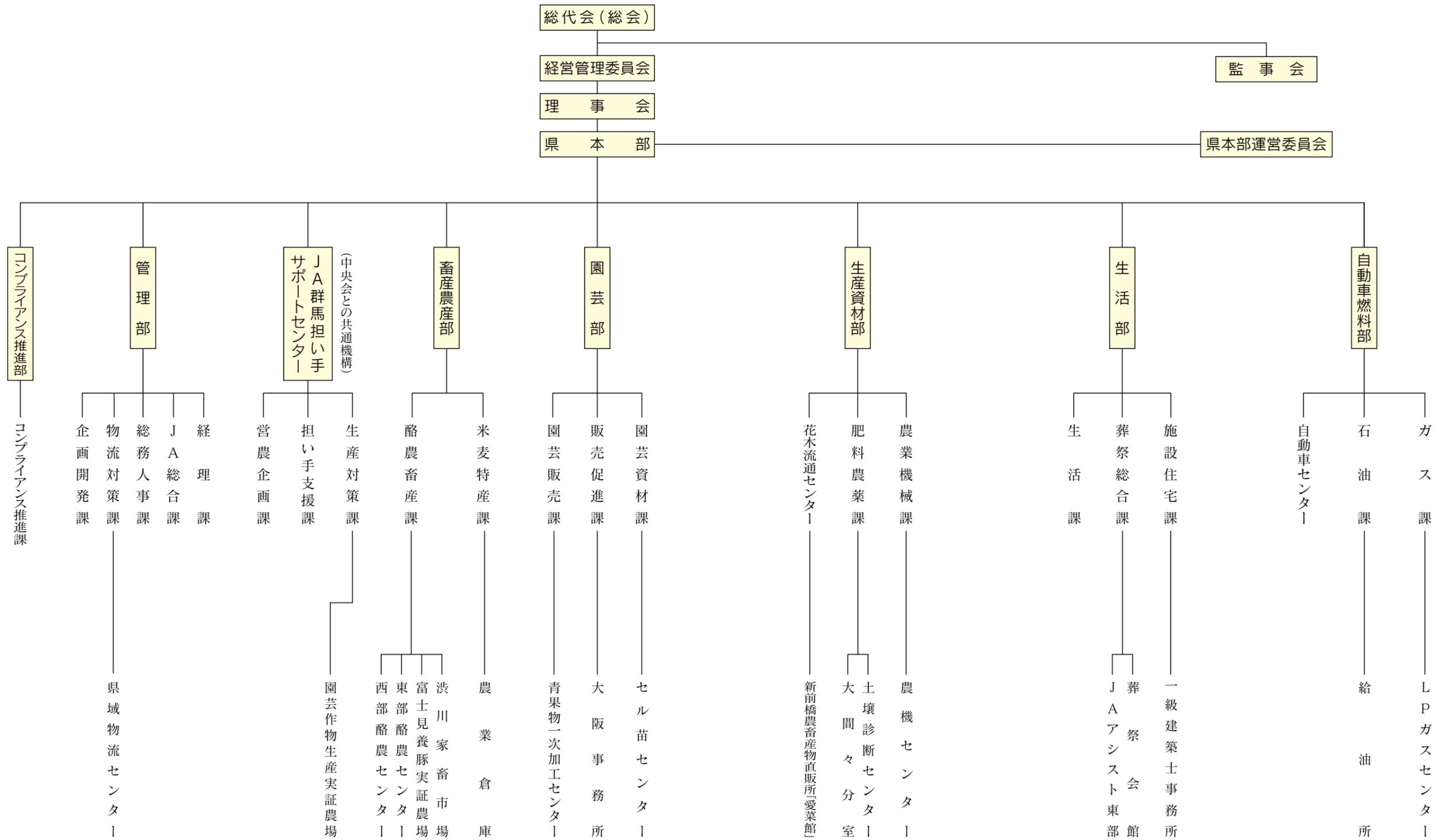
- 春期オイルキャンペーン (4月～5月)
- 春期タイヤ拡販キャンペーン (4月～5月)

ガス課

- 平成28年度ガス器具特別推進
- 平成28年度第一回クミアイガス器具推進

◆平成28年度 全農群馬県本部 組織機構図

平成28年4月1日現在



次期3ヶ年(平成28年～30年度)ならびに 平成28年度 事業計画書

全農グループ経営理念



私たちは「**安心**」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全国農業協同組合連合会 群馬県本部

I. 基本方向

1. 情勢認識

(1) 生産基盤の弱体化と変化

県内の販売農家戸数・農業就業人口は、高齢化や後継者不足などにより減少し、耕作放棄地の増加等による生産基盤の弱体化により、地域によっては、集落機能はもとより農業生産力・自給力の維持すら困難となっています。一方、集落営農・農業生産法人の数は増加し、全耕地面積は漸減傾向で推移していますが、販売農家一戸あたりの経営耕地面積は増加し、大規模化が進行しています。畜産では全畜種で頭数・戸数が減少しており和牛繁殖雌牛と乳用牛が大きく減少しています。

(2) 消費動向

食生活の多様化などの影響で野菜・肉は増加傾向にあるものの主食用米は減少しており、1世帯あたりの家計消費支出における金額では外食・中食の比率が増加し、特に青果物では、輸入品が一定のシェアを占めるカット野菜・惣菜需要が拡大しています。

(3) 農業政策

TPP(環太平洋連携協定)が27年10月に大筋合意したことから、海外農畜産物の関税引き下げによる輸入拡大により国内の農畜産物価格の下落が懸念されます。

また、米政策については、30年産米から生産数量目標配分の見直し・助成金の改廃が予定され、短期的には需給の緩和により米価が下落し、飼料用米など水田活用穀物の生産拡大に向けた環境整備が急務になっています。

(4) 農協改革

農協改革は、27年8月に「改正農協法」等が成立し来年4月から施行されることとなり、本会は「農林水産業・地域の活力創造プラン」を受けて作成したJAグループの自己改革のなかで、農業者の所得向上および生産基盤の維持・拡大、JA経済事業の支援に資する施策を着実に実践することが求められます。

2. 次期3ヶ年(平成28～30年度)の基本方向

群馬県本部ではこのような情勢を踏まえ、経営理念に基づき、組合員・会員への最大奉仕と地域社会への貢献という使命を達成するため、県域としてJAグループの自己改革の着実な実践と① 農業者所得の増大 ② 農業生産の拡大 ③ 地

域の活性化の「3つの基本目標」を達成するため、「5つの事業戦略」を明確化し、重点実施具体策を実施します。

(1) プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

ア. 実需者ニーズに基づいた米の買取や麦の中期生産計画の策定等により、集荷・販売力を強化します。

イ. 販売力を強化するため、消費者・需要者に支持される農畜産物づくりに向けた生産振興や青果物一次加工事業などに取り組みます。

ウ. 多様な販売体制の確立・強化のため、事業環境の変化に対応した直販方式や品目を横断した総合販売体制を検討し確立します。

(2) 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

ア. 県内主力作物等の農業経営モデルを構築し、安定的な生産体制を確立・普及するため、園芸作物生産実証農場を新設します。

イ. 労力軽減による生産と販売を充実するため、米のフレコン流通の推進や園芸の流通段階でのパッケージ機能を活用したバラ集荷・簡易規格等による販売等を拡大します。

ウ. 物流合理化体制整備や仕入れ機能の強化と高品質・高収量化技術や低コスト資材・農機等の推進・普及により、生産コストの低減に取り組みます。

(3) 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

ア. 大規模農家・農業生産法人等の担い手ニーズに対応するため、JAの出向く体制強化の支援や園芸作物生産実証農場での研修によりJAグループ職員の人材を育成します。

イ. 農業者所得の増大を図るため、酪農畜産での生産寿命・繁殖能力を向上した凍結精液や耕種作物での多収性の新品種などを推

進・普及します。

ウ. 担い手への対応強化として、肥料の満車直送や地域に適したセルフブレンド、農薬の大型規格品目等を推進・普及します。

(4) 経済事業を通じた生活インフラ機能の発揮

ア. 地域のニーズに合わせた家族葬会館やセルフSSを設置するとともに、災害時の石油類供給体制の強化と緊急対応設備の設置促進に取り組みます

イ. ガスの保安対策強化として、高機能安全装置付ガス器具・機器や系統安全化システム(ガスキャッチ)の普及を図るとともに、保安点検調査を強化して組合員に安全・安心を提供します。

(5) 経営体質の強化

ア. 業務内容の多様化・高度化に対応した、業務執行体制の合理化・効率化ならびに人材の開発と有効活用を図ります。

イ. 事業環境の変化に対応した、事業関連施設の経営改善および統廃合を実施します。

ウ. JA・組合員への支援機能の円滑化・効率化のための機構整備や効率的・合理的な事業および業務体系の構築と事業部門毎の労働生産性の向上と要員適正化等に取り組みます。

Ⅱ. 部門別重点実施具体策

[JA群馬担い手サポートセンター]

[営農企画課]

1. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

(1) 担い手への総合的な支援のため、事業提案や経営管理支援などの経営強化策をすすめます。

2. 営農支援対策

(1) 地域農業振興を図るため、JA農畜産物の生産販売計画の作成と目標達成に向け

た取り組みを支援します。

- (2) 高度化・専門化する担い手の課題への対応のため、JA営農経済部門の人材育成支援に取り組みます。

[担い手支援課]

1. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応
 - (1) 担い手ニーズに対応するため、TAC活動などJAの出向く体制強化と担当者の育成を支援します。
2. 大規模経営農家・農業生産法人等への対応強化
 - (1) 大規模経営農家・農業生産法人等への個別事業対応のため、JAの総合事業を活かした事業提案や経営安定化への取り組みを支援します。
3. 新たな担い手の育成・確保支援
 - (1) 新規就農者等の確保に向けた、JAの研修会などの取り組みを支援します。

[生産対策課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換
 - (1) 加工・業務用野菜の生産拡大のため、関係機関・各部門との連携を図り、JAの取り組みを支援します。
2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み
 - (1) 園芸作物生産実証農場において県内主力作物等の農業経営モデルを構築し、安定的な生産体制を確立し普及します。
3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応
 - (1) 園芸作物生産実証農場での研修によりJAグループ職員の人材を育成します。

4. 野菜の生産拡大に向けた振興対策

- (1) 野菜の生産拡大のため、関係機関・各部門との連携を図り、JAの野菜振興のための取り組みを支援します。

5. 農産物の安全・安心確保対策

- (1) 安全・安心な農産物の生産体制の確立のため、JAの生産履歴記帳推進ならびに残留農薬自主検査の取り組みを支援します。

[畜産農産部]

[酪農畜産課]

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み
 - (1) 集送乳合理化対応による酪農家所得増大のため、東部酪農センターを中心とした県央エリアの合理化を検討します。
2. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応
 - (1) 生産寿命・繁殖能力の向上のためCRI凍結精液の販売を推進します。また、同精液で作成したホルスタイン雌受精卵の販売を推進します。
 - (2) 搾乳牛・繁殖和牛を増頭するため、管内空牛舎の再活用として、酪農ヘルパーと業務提携し県央・西エリアに1箇所ずつ哺育センター(キャトルセンター)を設置します。
 - (3) 県内の畜産生産基盤の維持・拡大対策として、繁殖・肥育農家ならびに酪農家の労働力軽減、役割分担による効率的な酪農肉牛事業を構築するため、モデル事業として育成牛センターを新設し、初妊牛の生産販売および採卵受精卵販売を実施します。
 - (4) 多産系ハイコープ種豚の普及・拡大および同種の精液を推進します。また、同生産豚の飼養管理技術を指導します。
3. 家畜市場
 - (1) 上場頭数増加のため、群馬県本部の飼養管理マニュアルの普及による均一化を図るとともに、埼玉県本部・東京都本部と継続

して業務連携します。

- (2) 牛繁殖農家との契約採卵(全国本部ET研究所)による受精卵の増産および市場上場を推進します。
- (3) 高額販売可能な優良血統若齢雌牛の集中上場を推進します。
- (4) 早期母子分離技術の導入により分娩間隔の短縮(産仔数増加)を推進します。
- (5) 酪農事業と連動した哺育センター(キャトルセンター)機能を実践します。
- (6) 家畜取引法を遵守し、労災事故防止を徹底します。
- (7) 施設の改修や自動セリシステムの更新により新規購買者を獲得します。

4. 系統養豚生産基盤造成プロジェクト事業

- (1) 富士見養豚実証農場において、事故率・枝重の改善等を図り健全な運営を行います。また、東日本くみあい飼料(畜産経営研究所)への事業移管を検討します。
- (2) 利根沼田ドリームファームの生産成績を向上します。
- (3) ブランド豚(尾瀬ドリーム豚)の販売推進を支援します。

[米麦特産課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

- (1) 実需者ニーズに基づき、買取等による迅速な集荷・販売体制を構築します。
- (2) 県内向けの販売力強化のため、県産米商品の展開と広告宣伝を強化します。
- (3) 飼料用米の販売強化のため、安定的供給体制を構築します。
- (4) 米粉用米、加工用米・酒造好適米の販売強化のため、実需者確保による米粉用米・加工用米・酒造好適米の生産を維持します。
- (5) 麦需要に応じた生産強化のため、中期生産計画の策定と適正単収を設定します。また、地方連絡協議会・意見交換会・実需者巡回等による需要把握に基づき生産を確保します。

- (6) 高品質麦の安定生産に向けた取り組み強化のため、生産者に対する契約の確実な実行と栽培技術指導を実施します。また、担い手の育成により作付を維持・拡大します。
- (7) 袋資材の提案力強化のため、フレコン等流通実態にあった資材を推進し、新JIS規格対応の輸入FCの取り扱いを拡大します。また、新規用途のそば用袋等を推進します。
- (8) こんにゃく販売先の多様化に対応するため、「生ずり」用途向けの生玉販売を強化します。また、年間販売体制の構築を目指したJA加工施設の改善を提案します。

2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 米穀の多様な集荷方法の強化のため、フレコン流通の推進やJAと連携した庭先集荷の推進を実施します。
- (2) 袋資材の調達コストの低減のため、米紙袋の早期予約取り引きを拡大します。
- (3) こんにゃく輸送コスト削減の推進のため、直搬入取り引きを拡大します。
- (4) こんにゃくの年間平均販売による有利販売を実施するため、荒粉・精粉の加工を推進します。

3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 水稻の多収性業務用品種等の新品種を導入します。
- (2) 麦類産地育成対策のため、「利根硬11号」「アスカゴールデン」等を普及・定着推進します。
- (3) 大豆生産者の大型化への対応のため、「里のほほえみ」等の新品種を栽培実証により導入を推進します
- (4) 多様なこんにゃく生玉の取り引き方法の実施により、JA・本会の共販率向上と価格形成力を強化します。

[園芸部]

[園芸販売課・販売促進課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

(1) 加工業務向け販売の強化

ア. 青果物一次加工事業に取り組み、販売の拡大を図るとともに卸売市場との連携により、Gルート販売(契約的取引)の拡充強化と農業所得の安定化を図ります。

イ. 他県本部・県連と連携し、産地間リレー販売による周年安定供給体制を確立します。

(2) 直販事業の強化

ア. 実需者への直接販売を拡充強化し、全農直販施設(JA全農青果センター等)と連携した付加価値を高めた販売を強化します。

イ. 業種別・用途別の販売先の市場調査および販売提案などによる営業活動を強化し、取引を拡大します。

2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

(1) 労力軽減のため、販売先に対し簡易な出荷形態での販売を提案します。また、流通段階でパッケージ機能を活用し、バラ集荷・簡易規格等による販売を拡大します。

(2) 物流の合理化によるコスト低減のため、地元市場を活用した遠隔地向け販売を拡大します。

3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

(1) 契約販売の拡充強化

ア. Gルート販売により取引の安定化と販売先の確保に取り組みます。

イ. 周年を通じた安定出荷・価格の販売や出荷形態・荷姿・規格等付加価値をつけた販売を提案します。

ウ. 労力軽減につながるJAパッケージセ

ンターを活用した商品を提案します。

(2) パートナー店との連携強化のため、販売先と産地双方からの企画提案を進めます。

4. 卸売市場販売の拡充強化

(1) 系統共販体制を強化し共同計算販売を拡充強化します。

(2) 県行政との連携により、県産青果物および花きの消費宣伝事業の拡充強化を図ります。

(3) 関係機関と連携・協調し、需給調整事業の効果的・効率的でタイムリーな実施に取り組めます。

5. 関連情報の収集と発信

(1) 安全・安心に係わる情報及び関連する情報の定期的発信を行います。

6. 価格安定事業の拡充

(1) 交付予約数量の適正化を図り、事業を充実し農家経営を支援します。

7. 生産振興対策

(1) 担い手サポートセンターおよび県と連携し、生産基盤強化を支援します。

8. Gルート販売の拡充強化

(1) 加工業務向け青果物の生産振興による契約取引を提案します。

(2) 系統外生産者・生産法人等への価格安定・周年供給体制を見据えた販売を提案します。

9. 消費宣伝の強化

(1) 食品メーカー・異業種との共同企画により利用拡大を提案します。

(2) パートナー店との連携強化により、状況に即した迅速な消費宣伝の実施や、年間を通じた商品供給による売り場を確保します。

10. 情報収集・発信の迅速化

(1) 新品種・新規品目・新規出荷形態(荷姿)を導入し、実需者へ紹介します。

(2) 他産地の生産状況や販売戦略の動向、消費地の流通販売動向の情報を発信します。

[園芸資材課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

(1) 消費地需要にあった新商品の提案・取り組みとして、SRP(楽らくボックス)段ボールを取り扱います。

2. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

(1) 施設園芸の高品質・高収量化技術の提案・取り組み

ア. 炭酸ガス施用技術やドライミスト発生装置等の施設内湿度管理方法、省力的な地下部環境制御技術を検討・実証します。

イ. トロ箱溶液栽培システム「ういずOne」を普及します。

3. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

(1) 全国需要結集による価格低減として、全農オリジナル商品(クラフト・OPPテープ等)を提案・推進します。

4. 販売事業との連携強化による出荷資材の規格統一や開発・普及提案

(1) 全国需要結集品を提案し、普及します。
(2) 系統パイプハウス補償制度の活用によりシェアをアップします。

5. 品目選定と重点的な推進による事業拡大

(1) 個別推進によりハウス被覆資材やマルチなどの農業資材の取り扱いを拡大します。
(2) 適正包装等の提案により、段ボール資材の取り扱いを拡大します。
(3) 花卉種苗の取り扱いを拡大します。

6. 低コスト資材・環境問題に対応する資材等の事業拡大

(1) 生分解マルチ・省エネ資材などの農業資材の取り扱いを拡大します。

(2) 鉄製コンテナ・PLAパックなどの包装資材の取り扱いを拡大します。

(3) 新形状・省力型・低コスト原紙などの段ボール資材の取り扱いを拡大します。

7. JA担当者への推進力強化

(1) JA別資材担当者研修会等を実施します。
(2) 系統園芸用パイプハウス補償制度を普及推進します。

[生産資材部]

[花木流通センター]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換

(1) 顧客ニーズに応えるため、顧客年齢層(50~70代)に合わせた商品をセレクトし、企画・提案します。

2. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

(1) 農産物直売の出荷者の確保
ア. 近隣JAへの働きかけと説明会を開催します。
イ. 既存出荷者へ希少品・差別化品の生産を依頼します。
ウ. 生産者組織を有効活用(フェア・イベント等)します。

3. 経営体質の強化

(1) 収益の確保のため、粗収益率の高い農機・園芸農薬等の取り扱い高を拡充します。
(2) 費用の削減のため、嘱託・技能職の積極的登用、臨時職の効率的勤務体制の確立等により、人件費を削減します。

4. 花木流通センターの再開発および事業拡大

(1) 新鮮で安全・安心な農産物を消費者に届けるため生産履歴制度の確立とともに、産直農家及び県内各産地から集荷による産直店舗の取り扱い高拡大と新規取り扱い商品

(食肉商材・ベーカリー・コンビニ・イートイン等)ならびに新形態で経営内容を充実します。

- (2) 花木流通センターを機軸とし、生園芸の内容充実と資材等の大量購買のメリットを活かし、仕入体制を強化し、生産資材店舗等への有利性を発揮し、事業を拡大します。

5. 愛菜館の業務改善

- (1) 消費者が安心して購入するための食品表示徹底と接客体制を改善します。

6. 地域農業の支援者の拡大

- (1) 収穫体験農場で栽培講習会・収穫体験・親子食育教室などを実施し、消費者とJAグループ・生産者の接点を深め、地域農業の支援者を拡大します。

[肥料農業課]

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 低コスト・省力商品の開発と普及
 - ア. 国内の地域資源を活用し、鶏糞燃焼灰入り銘柄や混合堆肥複合肥料の普及を推進します。
 - イ. 茎葉処理除草剤等の大型規格品の普及を推進します。
 - ウ. 肥効調整型肥料や育苗箱全量施肥銘柄を推進します。
- (2) 生産性向上に資する資材の普及や技術の普及・推進
 - ア. 土づくり肥料やPKセーブシリーズを推進します。
 - イ. 難防除害虫であるアザミウマ類、ハダニ類対策の代表的な天敵「スワルスキーカブリダニ」などの増殖資材「バンカーシート」を活用したIPM(技術総合的病害虫管理)を推進します。

2. 農畜産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- (1) 価格対応力の強化として、取引条件に

じた弾力的な価格設定に取り組みます。

- (2) 本会開発剤等の普及拡大として、水稻除草剤のMY-100剤やAVH-301剤及びスプラサイド剤を推進します。
- (3) 人材育成支援として、JAや生産者を対象とした各種講習会を実施し、計画的な人材育成を提案します。
- (4) 担い手への対応強化として、土壌診断の実施・施肥改善の提案・堆肥分析による土づくりを支援します。
- (5) 担い手への肥料満車直送を推進します。
- (6) 農家の要望と地域に適したセルフブレンド肥料を推進します。
- (7) 担い手における手取り最大化の実証として、モデルJAと実証実践に取り組みます。

[農業機械課]

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み

- (1) 低コスト農業機械の普及拡大として、県本部推奨型式や良質で低コストな中古農機の取り扱いを拡大します。
- (2) 農機格納点検整備を強化して、格納点検の強化によるユーザーの長持ち志向を支援します。
- (3) 農機レンタル実証事業とモデルづくりを実施します。

2. 経営体質の強化

- (1) JA・県域農機一体運営事業の競争力を強化するため、新品供給への依存度を下げ、部品・整備料による収益の改善を図り、県内JAの経営基盤を強化します。
- (2) 農機一体運営拠点を集約統合し、農機サービスを安定的に提供します。
- (3) 人づくり・仕組みづくり・結果づくりの新3づくり運動を展開し、組合員の多様なニーズに対応します。

[生活部]

[生活課]

1. 組織購買事業の競争力強化

- (1) JA・農家組合員施設の有効利用と環境保全を図るため、住宅・産業用の太陽光発電システムの取り扱いを拡大します。
- (2) 安心・安全で旬な物を旬な時期に合わせ、品質・価格の安定供給を図り国産青果物の取り扱いを拡大します。
- (3) 農家組合員等の資産保全を図るため早期予防を行い、シロアリ防除・瓦補修事業への取り組みを強化します。
- (4) 健康体感館・聞こえの相談会等の開設により、健康関連商品の取り扱いを拡大します。
- (5) 直売所向け商品の供給体制の見直しと品揃えの充実を図るため、JA直売所への供給を拡大します。

[葬祭総合課]

1. 経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮
 - (1) 地域のニーズに合わせた葬儀事業の展開として、家族葬会館(小規模会館)の建設を検討します。
2. 葬祭事業競争力強化
 - (1) 会員加入推進の取り組みや宣伝強化により、JA葬儀施行件数を拡大します。
 - (2) 各種フラワーイベントの開催や仕入れの強化等により、生花の取り扱いを拡大します。
 - (3) 情報収集・提供の強化や未利用JAへの推進により、墓碑の取り扱いを拡大します。
 - (4) JA葬祭事業専門職員の育成を図るため、各種講習会・研修会を実施します。
 - (5) JA葬儀事業の事務の効率化と経営管理強化を図るため、葬儀管理システム導入JAを拡大します。

[施設住宅課]

1. 系統施設建設事業の確立
 - (1) 施主代行の計画作成から設計・施工管理にいたる総合的機能を発揮し、低コストで合理的な施設建設に取り組みます。
 - (2) JA等の既存施設の補改修等の提案を行い、施設の有効活用を進めます。
 - (3) JACントリーエレベーターの施設診断

を行い補改修・機械の更新を提案します。

- (4) トータルコスト削減の観点から、農業施設の総合コンサルと複数JAによる計画的な施設の集約・相互利用を進めます。

2. 農住事業コンサル機能の強化

- (1) 賃貸住宅の系統仕様基準をもとに、組合員に信頼される賃貸住宅建設に取り組みます。
- (2) 組合員の資産活用に応えるため、相談会・相続対策セミナー・土地活用セミナーなどを積極的に開催するとともに、JAの他部門との連携により情報収集を強化します。
- (3) 賃貸住宅経営の長期安定のため、巡回点検による適切なりノベーション提案や管理会社との対策会議を定期的を開催し、入居率アップを図ります。
- (4) 大手Webサイトへの空室物件を掲載します。

3. 広域事業所の検討

- (1) 北関東(茨城・栃木・群馬)広域施設農住事業所の組成に向けて検討します。

4. 専門資格者の確保と育成

- (1) 専門資格者(一級建築士・宅地建物取引士)の育成と確保を積極的に進め、事業主体が求める高度な技術と知識により施設建設に伴う管理業務と提案活動を実施します。

[自動車燃料部]

[自動車センター]

1. 経営体質の強化

- (1) 整備工場運営の見直しにより、自動車事業の収支を改善します。

2. 整備事業の強化

- (1) 連合会職員・関連会社職員へ車検入庫促進策を実施します。
- (2) 業務用車両の定期点検入庫を促進します。
- (3) ハイブリッド・電気自動車を含む整備技術の向上を図り、安全・安心・信頼されるアフターサービス体制の構築に取り組みます。

3. 販売事業の強化

- (1) 関連会社・取引先業務用車両を推進します。
- (2) 連合会の職員および関連会社の社員へ車両を推進します。
- (3) ユーザーニーズに応えられる中古車取り扱い体制を構築します。

[石油課]

1. 経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮

- (1) JA-SSおよび配送施設の拠点再編として、効率的なSS運営の実現のため、セルフSSの設置促進を進めるとともに老朽化施設の施設改善への取り組みと低コスト運営手法を研究します。
- (2) 営農用燃料の取り組み強化として、営農用A重油(国産A重油還付)の新規利用を拡大します。
- (3) 物流コストの低減と安定供給体制の確立として、配送施設の集約による物流の合理化とコスト削減および災害時の供給体制の強化と緊急対応設備の設置促進に取り組みます。

2. 経営体質の強化

- (1) JA-SSの運営体制の強化のため、スタッフを育成して現場指導を強化し、サービスの向上に取り組みます。
- (2) 事業競争力の強化を図るため、競合SSとの差別化を図り、JA取り扱いシェアを拡大します。

[ガス課]

1. 経済活動を通じた生活インフラ機能の発揮

- (1) 保安対策の強化として、高機能安全装置付ガス器具・機器を普及促進します。
- (2) 系統安全化システム(ガスキャッチ)の普及拡大により保安を高度化し、保安サービスと信頼の向上・他業者との差別化・システム全体のコスト削減を図るとともに保安点検調査を強化し組合員に安全・安心を提供します。

2. 取り扱い数量の維持拡大

- (1) 他業者切替防止対策を強化し、家庭用需要を維持します。
- (2) 小売指導担当者を配置し、家庭用燃料転換活動の展開および新エネルギー推進の取り組みにより小売機能を強化します。

3. 新たな事業体制の整備

- (1) 小売機能強化に向けた県域直売体制を構築します。

[管理]

[コンプライアンス推進課]

1. コンプライアンス推進態勢の充実

- (1) コンプライアンス意識の向上対策の取り組みとして、コンプライアンス推進全体職員研修会(年2回)、コンプライアンス推進者研修会を実施します。また、コンプライアンス意識調査結果に基づく職場改善に取り組みます。

2. リスク管理態勢の強化

- (1) 重点管理すべきリスクへの対応強化として、労災防止・交通安全に係る啓発と対策強化に向けた取り組みやリスク事案発生部署の巡回指導・現金管理状況の確認・個人情報管理に係る取り組みを強化します。
- (2) 食品の適正表示の徹底のため、食品表示に係る巡回指導・検証(県本部該当部署・食品取り扱い子会社)・同業種拠点における食品表示管理業務の相互検証・リスク事案発生部署を巡回指導します。

3. 子会社等の管理態勢の強化と経営強化対策

- (1) 会社内のガバナンス強化のため、定時株主総会・取締役会の適正な運営のための会社管理部署の指導や、常勤監査役および監査主任者との連携による適切な取締役業務執行の補佐・内部統制システム構築を支援します。

[企画開発課]

1. 情報の収集・発信

- (1) 各事業部門との連携により、情報誌の内容の充実とホームページ・新聞等を積極的に活用した情報を収集・発信します。
- (2) 各種イベントや情報誌を通じ、県産農畜産物のPRと情報収集・提供に努めます。

[物流対策課]

1. 生産から販売までのトータルコスト低減の取り組み
 - (1) JAグループ物流コスト削減の取り組みとして、県域物流未実施JAへの参画を推進し、県域物流ネットワークを構築による県内JA物流相互補完を強化します。
 - (2) JAグループ物流コスト低減のため、県域を越えたブロック域での取り組みとして、関東広域肥料農薬拠点(仮称)の県内誘致の検討や県本部内物流実態調査による県本部部門間配送品を集約します。
2. 県域物流実施JAの経済事業改革支援
 - (1) 県域物流実施JAの更なる合理化のため、JA物流コスト定期調査や配送実績・配送スケジュール等の物流管理を徹底します。また、配送効率化によりコスト低減します。

[総務人事課]

1. 経営体質の強化
 - (1) 今後の施設投資(更新・修繕)を検討するため、施設老朽化の現状を調査し、中長期修繕計画を策定します。
 - (2) 今後の事業遂行に必要な要員を確保するため、要員不足や年齢構成是正のための要員施策(中途採用や身分移行、障害者雇用の促進等)を検討します。

[JA総合課]

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換
 - (1) 多様な販売体制の確立・強化
 - ア. 事業環境の変化に対応した直販方式やIT活用、品目を横断した総合販売体制を検討し確立します。

- イ. 県内JA産直取引の提案品目の拡充・販売拡大や群馬県産農畜産物・加工品の認知度向上に取り組みます。

2. 会員JA等に対する総合窓口担当業務の取り組み強化

- (1) JAに対する連絡・調整・相談業務を強化します。また、JA経済事業推進協議会活動と営農指導員連盟との連携による経済事業活動を強化します。
- (2) JAの情報を収集・調査して、関係部門に正確かつ迅速に報告し本会事業に活用します。
- (3) JA及び関係機関の各種催事等に参画します。また、行政機関と連携したJA事業への取り組みを強化します。

[経理課]

1. 現業サポートの強化

- (1) 業務の適正化を図るため、規定・規則・細則・要領等に則った経理処理を徹底します。
- (2) 適正な現金管理を指導するため、現金の取り扱い部署を巡回します。
- (3) 的確かつ効率的な事務処理を目指すため、経理関係研修を開催します。





平成27年度 肉用牛合同研修会
(3.4 JAビル)



完成予想図▶
JA太田市九合支所起工式
(3.7 建設予定地)

■ 持続的な肉牛経営を学ぶ

3月4日(金)、(公社)群馬県畜産協会・(一社)家畜改良事業団前橋種雄牛センター・各種協議会・当県本部共催の「平成27年度 肉用牛合同研修会」が開催され、生産者やJAの畜産担当者等252名が参加しました。第1部では各団体による事業・情勢報告等が行われ、続く第2部・第3部ではKAPEO木村畜産技術士事務所の木村氏、(有)北国肉牛商事の小野氏による講演がそれぞれ行われました。

■ 期待の新支所を起工

3月7日(月)、「JA太田市九合支所起工式」が執り行われ、設計及び施主代行を務める当県本部の関係者も出席しました。老朽化に伴い新築される当支所は、周囲の景観に合わせたレンガ調の外観となり、内部には無給水加湿装置や天井裏の自動換気システムといった最新の設備が導入されます。敷地内に併設している直売所との連携で、組合員だけでなく地域の方々の生活をサポートします。支所完成は8月を予定しています。



農業現場の課題・ニーズ発表会
(3.16 JAビル)



人形供養祭
(3.21 JAアシストホールみなかみ)

■ 農業現場での ロボット技術導入を検討

3月16日(水)、群馬県主催の「農業現場の課題・ニーズ発表会」が開催され、県内6JAと営農総合支援センターの担当者等約50名が参加しました。この発表会は、ロボット技術を活用した農作業の省力化・軽労化等を検討することを目的としており、当日は、(株)エムスクエア・ラボ代表取締役の加藤氏による農業機器・ロボット開発の実情などについての講演が行われた他、各JA担当者より、農作業における課題や要望が発表されました。

■ 大切にしていた 思い出をいつまでも

3月21日(月)、JAアシストホールみなかみにおいて「人形供養祭」が行われ、思い入れのある人形約3000体が持ち込まれました。神主による神事が執り行われた後、参列者は壇上に並んだ人形へ玉串を奉奠し、感謝の気持ちを捧げました。また、会場では地元産ジュースやお茶・のりの試飲・試食会、豚汁の無料配布、葬儀無料相談会といった各種イベントも行われ、約600名の来場者で賑わいました。



JA全農ぐんま
青果物一次加工センター施設整備工事安全祈願祭
(3.24 前橋生鮮食料品総合卸売市場内建設予定地)



平成27年度 野菜生産拡大研修会
(3.25 JAビル)

■ マーケットインへの実践 加工施設の工事着工

3月24日(木)、「JA全農ぐんま 青果物一次加工センター施設整備工事安全祈願祭」が執り行われました。青果物の加工・業務用需要への対応として、前橋生鮮食料品総合卸売市場の敷地内に建設される当センターは、キャベツの芯抜き等、青果物の一次加工と販売を行う施設です。稼働により、新たな販路拡大と販売力の強化を図り、生産者所得の安定化を目指します。センター完成は8月上旬を予定しています。

■ 野菜振興の取り組み強化を図る

3月25日(金)、群馬県営農総合支援センター主催の「平成27年度 野菜生産拡大研修会」が開催され、14JA・県・当県本部の担当者等約60名が出席しました。研修会では、平成27年度JA野菜振興計画取り組み実績の報告や、平成28年度野菜振興支援策等の説明が行われました。また、農業生産法人サンファーム・オオヤマ(有)の大山氏による講演も行われ、大山氏が技術主管を務めるトマトの実証栽培施設「ゆめファーム全農」の優れた技術等が紹介されました。



防犯講習会
(3.24 JAビル)



JAグループ群馬の取り組みに関する会長記者会見
(3.31 JAビル)

■ 犯罪被害にあわないために

3月24日(木)、コンプライアンス推進課主催の「防犯講習会」が行われ、本会と関連事業各社の店舗職員等が参加しました。当講習会は、今年1月に給油所で発生した強盗事件を受け、職員の防犯意識の向上を図るために開催されたものです。当日は、群馬県警察本部生活安全企画課の宮原氏による、犯罪の手口や事件発生後の迅速な対応等についての講習が行われ、参加者は店舗運営における防犯対策を学びました。

■ 「JA自己改革」の取り組みを説明

3月31日(木)、新年度からのJAグループ群馬の取り組みに関する記者会見が行われ、各連合会の役員等が出席しました。会見では、JA群馬中央会と当県本部の共通機構である「JA群馬担い手サポートセンター」の概要や役割の紹介、「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」における県域企画応援事業についての説明、また各連合会の中期計画の概要について説明が行われました。大澤会長は、「JAグループ群馬が一丸となり、信頼される組織作りに取り組んでいきたい。」と意気込みを語りました。

日頃の感謝の気持ちを込めて

3.5～6 18～21 大創業祭 愛菜館・花木センター

3月5日(土)・6日(日)の2日間、愛菜館で「創業15周年大感謝セール」が開催されました。会場では、全農パールライス(株)による利根きりり試食会や(株)群馬県食肉卸売市場による上州牛・上州麦豚試食販売、生産者による青空市などの各種イベントが行われました。



▲はずれくじなしのお楽しみ抽選会(愛菜館)

また、花木流通センターでは3月18日(金)～21日(月)の4日間、「41周年大創業祭」が開催されました。会場では、群馬県産農畜産物フェアや(株)群馬県食肉卸売市場・JA高崎ハム(株)の試食販売、じゃがいものつめ放題などが行われました。両会場共、連日多くのお客様で賑わいました。



▲大盛況のじゃがいもつめ放題(花木流通センター)

県産農畜産物 売り込みに手応え

3.9～10 第10回JAグループ国産農畜産物商談会 東京ドームシティ プリズムホール

3月9日(水)・10日(木)の2日間、東京ドームシティ プリズムホールにおいて「第10回JAグループ国産農畜産物商談会」が開催されました。食品会社やバイヤーに向けて、地域色溢れた商品を宣伝し、販路拡大を図ることを目的に毎年開催されており、今回JAグループ群馬のブース



▲試食をする来場者



▲群馬県ブースを訪れた小淵優子議員



▲会場内の様子

には、JA前橋市・JAたかさき・JAたのふじ・JAあがつま・JA上野村と群馬県食肉品質対策向上協議会、当県本部が出展しました。各JAの農畜産物加工品を始め、上州牛・上州麦豚や高糖度トマト「ブリックスナイン」、県育成品種のいちご「やよいひめ」などの青果物を豊富に用意し、試食・試飲を通し、積極的に県産農畜産物の魅力をPRしました。

子供たちの夢を応援

3.19~20 JA全農杯チビリンピック2016 小学生8人制サッカー 前橋総合運動公園・宮城総合運動場

3月19日(土)・20日(日)、JA全農が特別協賛している「JA全農杯チビリンピック2016 小学生8人制サッカー」の関東大会が当県を会場に開催され、関東8都県の代表16チームが出場しました。群馬県からは、「ファナティコス」と「パレイストラS.S.」の2チームが出場し、見事なチームプレーを披露しました。2日



▲副賞のコンニャクゼリーを受け取る選手たち



▲熱戦の様子

間の熱戦の末、優勝した埼玉県の「大宮アルディージャジュニア」と準優勝した東京都の「JACPA東京FC」は、5月に行われる全国大会へ出場します。選手たちには、当県本部から副賞としてコンニャクゼリーやトマトジュースが贈呈されました。

青果物の生産拡大と販売促進のために

3.22 群馬県青果物販売促進会議 渋川市ホテル天坊

3月22日(火)、県・群馬県園芸振興協議会・当県本部共催の「群馬県青果物販売促進会議」が開催され、県内各JA・JA関連団体・全国主要青果物卸売会社・流通関係者等、約200名が参加しました。この会議は、市場をはじめとする流通関係者に対し、本県産青果物の販売促進を行うと共に、生産から流通までの販売体制の強化を図る

ことを目的に毎年開催されています。当日は、優良卸売会社並びに実需者の表彰や、本県の園芸振興対策と平成28年度青果物生産出荷基本計画についての説明、ノンフィクションライター・スポーツジャーナリストの松瀬氏による講演会が行われました。



▲挨拶をする大澤会長



▲優良卸売会社の表彰



▲試食会場の様子

事業強化に向けて協議

3.17 平成27年度石油事業一体化経営委員会 JAビル

3月17日(木)、県内JAの組合長・理事長及び当県本部の関係役職員参集のもと、「平成27年度石油事業一体化経営委員会」が開催されました。会場では、「平成27年度事業報告」・「平成28年度事業計

画」・「覚書の締結」・「平成28年度役員体制」についての協議が行われ、全て可決承認されました。今年度石油課では、10JA・40SSによる一体化体制で、サービスの向上とシェア拡大に取り組みます。



全体管理職会議
(4.1 JAビル)

■管理職の心構えを確認

4月1日(金)、平成28年度の始まりにあたり「全体管理職会議」が行われました。会議では、27年度の事業功績表彰や新任管理職の紹介、須藤本部長による訓示が行われ、管理職としての心構えを示しました。須藤本部長は、「JA自己改革の最大の課題は、営農経済事業の強化の一言に尽きる。」とした上で、「新しい管理職体制のもと、28年度計画達成に向けて、全職員が誠心誠意、全力投球で事業に取り組んで欲しい。」と力強く話しました。

組合員の皆様へ

農作業・行楽のお供に 喉の渴きを 満たします



① 日本のお茶
500ml×24

国産茶葉
100%
使用

スタンダードな緑茶ペットボトルです。飲みやすさを追求し、お茶の旨みを引き出し、苦み・渋みを抑えた素直な味わいです。



② 日本の烏龍茶
500ml×24

国産茶葉
100%
使用

国産茶葉を発酵させて作られた烏龍茶です。独特の香りとすっきりとした味わいをお楽しみください。

※都合によって容器デザイン等の変更がありますのであらかじめご了承ください。

ACOOP 安心と信頼のくらしの良品

組合員の皆様へ

新茶
Green tea

抹茶入煎茶
プレミアム紫鳳
新発売!!

ほう...、

新茶予約受付中!!

お届は5月中旬ごろになります。
(天候により遅れる場合がありますので、予めご了承ください。)

プレミアム紫鳳はエコーブ銘茶で一番人気の「紫鳳」に一番茶でつくられた抹茶をプラスしました。
抹茶と煎茶が織りなすハーモニーをご賞味ください。
夏には冷茶もおすすめです!!

ご注文は、お近くのJA窓口及び担当者まで

みどりの風 放映予定

GTV 48ch 放映のお知らせ

番組名/提供	放送日 ※再放送日	時間
大自然が生み出す! 上野村の特産品/JA上野村	※5月1日(日)	AM 8:00~8:30
こだわり生産! バラと水菜/JA前橋市	5月2日(月)	PM 9:00~9:30
	※5月8日(日)	AM 8:00~8:30



山部 朱里アナ

がんばってまーす!

INTERVIEW

JA北群渋川
営農部 北部営農センター

丸岡 泰大さん

Profile

まるおか・やすひろ (26歳)

趣味.....旅行
休日の過ごし方.....ドライブ
好きな食べ物.....麺類全般

●職場の皆さんからみた丸岡さん

「真面目で元気よく、組合員のことを常に考えて仕事をしてくれます。今後さらなる活躍に期待しています！」

「食を支える仕事に誇りを持っています！」

— どうしてJAで働こうと思ったのですか？

生まれ育った地元に貢献できる仕事がしたいと思い、農業だけでなく多方面から地域の人々をサポートしているJAに興味を持ちました。また、実家は非農家なので、農業というまったく未知のフィールドで働いてみたいという気持ちもあり、就職を決めました。

— 現在入組何年目ですか？

5年目です。ずっと営農に関する業務を担当していて、今はいちご・チンゲンサイ・コギクの生産部会を担当しています。

— 仕事内容を教えてください。

講習会や視察研修会の開催といった運営指導や資材の供給等を行っています。たとえば先日は、JA赤城たちばなと合同でコギクの研修会を開催しました。他の地域の栽培方法などの情報が共有できるので、毎回組合員さんからは好評です。

— 働く以前と今とで心境に変化はありますか？

仕事を通して生産者の苦労がわかるようになりました。それまでの買うだけの立場から、生産者と消費者両方の視点から食を支えたいと思うようになりました。

— どんな時にやりがいを感じますか？

スーパーに並ぶいちごに、自分が供給した資材が使われているのを見見すると誇らしい気持ちになりますね。

— 休日の過ごし方を教えてください。

車で妻と観光地へ出かけたりしています。昔から乗り物や運転が好きなので、長距離の運転も苦になりません。

— ドライブにはどんな所へ行きましたか？

江の島・鎌倉や勝浦・鴨川方面

などへ行きました。

— 最後に、今後の意気込みをお聞かせください。

今は部会員の方々とのやりとりがメインとなっていますが、他の組合員さんの所にももっと出向き、自分の顔を覚えてもらいたいと思っています。今後も組合員さんから必要とされ、愛される職員となれるよう頑張ります。

— 丸岡さん、これからも頑張ってください！ありがとうございました。



▲ 組合員に資材の供給をする丸岡さん

畜産ダイジェスト

酪農情勢

■生乳生産量

農林水産省は3月25日に2月の牛乳乳製品統計を公表した。2月生乳生産量は59万5,311tで前年に比べ3.9%増加した。北海道は31万3,025t(前年同月比5.8%増)で生産量の全国シェアは52.6%となった。都府県の生産量は28万2,286tとなり、前年同月比で2.0%増加した。

■販売及び乳製品情勢

2月の用途別処理量は、牛乳等向けが31万3,548t(前年同月比5.0%増)、乳製品向けが27万7,228t(〃3.0%増)となった。

飲用牛乳等生産量は27万6,866kl(〃4.4%増)で前月から0.2ポイント減少し、内牛乳が24万2,188kl(〃4.5%増)、また乳飲料は8万7,193kl(〃4.4%減)で前月より6.7ポイント減少した。

生乳生産量と用途別処理量

(単位：t、%)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生乳生産量	全 国	625,011	648,952	624,650	628,725	608,496	592,876
	群馬(委託実績)	18,539	19,033	17,853	17,612	17,190	16,517
	本会(委託実績)	5,955	6,116	5,719	5,542	5,300	5,168
用途別処理量	飲用牛乳等向け	322,457	347,312	349,033	338,115	322,777	337,971
	乳製品向け	297,955	296,945	270,983	285,841	281,149	250,222
	その他向け	4,599	4,695	4,634	4,769	4,570	4,683
前年対比	生乳生産量(全国)	99.7	99.8	100.9	101.8	101.4	101.6
	〃(群馬)	98.5	98.9	99.4	100.0	101.4	100.2
	〃(本会)	96.1	97.2	98.0	98.1	97.9	98.1
	飲用牛乳等向け	102.7	101.5	101.1	100.3	101.9	98.7
	乳製品向け	96.7	97.9	100.8	103.5	100.9	105.9
10月		11月	12月	1月	2月	3月	計
603,329	588,497	620,193	627,189	595,311			6,763,229
16,976	16,729	17,653	17,979	17,122			193,203
5,323	5,207	5,536	5,676	5,443			60,986
343,924	328,559	311,055	317,333	313,548			3,632,084
254,811	255,325	304,470	305,271	277,228			3,080,200
4,594	4,613	4,668	4,585	4,535			50,945
100.9	100.8	101.1	100.6	103.9			101.1
99.9	100.0	101.2	99.9	102.5			100.2
97.3	97.0	99.6	99.1	101.9			98.2
99.5	101.2	101.7	100.9	105.0			101.3
102.9	100.4	100.7	100.3	103.0			101.2

肉牛情勢

肉牛枝肉相場(4月予想)：牛肉は強もちあい。ゴールデンウィーク需要及び、食肉卸の決算終了に伴い買いが盛まり相場を押し上げる見通し。

肉牛枝肉相場(予想)

・和牛去勢A5	2,850円中心	・和牛去勢A3	2,500円中心	・交雑去勢B3	1,650円中心
・和牛去勢A4	2,650円中心	・和牛去勢A2	2,200円中心	・交雑去勢B2	1,400円中心
		・交雑去勢B5	2,100円中心	・乳牛去勢B2	1,050円中心
		・交雑去勢B4	1,800円中心		

枝肉価格の推移(群馬県食肉卸売市場)

(単位：円/kg、税込み)

年・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・計
和牛去勢A4	1,899	1,914	1,893	1,862	1,959	2,006	2,129	2,166	2,163	2,297	2,288	2,257	2,069
前年格差	384	435	359	393	390	389	326	373	591	348	352	372	393
和牛去勢A3	1,669	1,664	1,658	1,662	1,726	1,797	1,988	2,019	1,933	2,059	2,079	2,055	1,859
前年格差	429	468	422	423	380	336	240	330	552	405	305	357	387
和牛去勢A2	1,516	1,492	1,486	1,455	1,532	1,663	1,757	1,863	1,648	1,819	2,000	1,828	1,672
前年格差	510	356	380	501	300	246	232	304	627	21	▲23	336	316

群馬県食肉卸売市場上場頭数・全国と畜頭数

(単位：頭)

年・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均・計	
26年-27年	1,291	1,098	1,104	1,262	1,068	1,216	1,232	1,465	1,385	1,005	1,091	1,012	14,229	
27年-28年	1,085	946	907	1,151	871	1,004	1,084	1,390	1,321	966	1,009	1,091	12,825	
前年格差	▲206	▲152	▲197	▲111	▲197	▲212	▲148	▲75	▲64	▲39	▲82	79	▲1,404	
全国と畜頭数	25年-26年	103,062	95,418	90,357	104,661	91,687	93,321	104,050	117,198	113,212	86,606	85,968	91,771	1,177,311
	26年-27年	99,464	91,001	90,327	102,267	88,474	95,800	105,092	110,615	109,345	85,310	85,824	92,201	1,155,720
	27年-28年	95,755	83,324	89,621	98,748	84,388	88,223	95,304	106,249	102,271	79,030	82,811		1,005,724
	前年比	96.3	91.6	99.2	96.6	95.4	92.1	90.7	96.1	93.5	92.6	96.5		98.2

■素牛動向

- ①和牛子牛 (去勢) 837千円平均(前月比102%) (雌) 732千円平均(前月比102%)
 - ②F1価格 (去勢) 442千円平均(前月比100%) (雌) 355千円平均(前月比99%)
 - ③全農・取引基準価格 (去勢) 229千円平均(前月比94%)
- 4月道産肉用乳素牛取引基準価格：780円/kg(前月価格の20円下げ)

養豚情勢

枝肉相場関係

株群馬県食肉卸売市場（上物加重・円/kg）

※平成25年4月より相対を含む。（単位：円税込）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
25年-26年(A)		450	499	485	498	507	499	466	477	521	458	467	496	485
26年-27年(B)		553	582	621	580	548	548	517	569	609	547	588	565	569
27年-28年(C)		569	535	565	613	615	530	471	481	531	472	525	490	533
(B-A)		103	83	136	82	41	49	51	92	88	89	121	69	84
(C-B)		16	▲47	▲56	33	67	▲18	▲46	▲88	▲78	▲75	▲63	▲75	▲36

豚肉価格形成要因

株群馬県食肉卸売市場と畜頭数（自家用と畜は除く）

（単位：頭）

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間頭数
と畜頭数	26-27年	44,690	39,069	36,628	39,821	35,032	40,542	44,979	36,865	41,060	39,158	37,138	39,152	474,134
	27-28年	41,752	37,407	39,299	40,863	35,998	42,383	45,504	42,103	45,522	39,121	40,131	41,952	492,035
前年比(%)		93.4	95.7	107.3	102.6	102.8	104.5	101.2	114.2	110.9	99.9	108.1	107.2	103.8

肉豚生産出荷予測（全国） ※1月まで実績／2月以降の出荷予測は

2月29日付けで農水省畜産部食肉鶏卵課が発表

（単位：千頭、前年同月比%）

区分	月	10月	11月	12月	10月~12月	1月	2月	3月	1月~3月	4月	5月	6月	4月~6月	7月
全国出荷予測頭数(千頭)		1,443	1,410	1,484	4,337	1,349	1,457	1,413	4,219	1,373	1,333	1,333	4,039	1,247
前年同月比(%)		101	109	101	104	100	114	103	106	100	107	103	103	94

■生産動向：農水省食肉鶏卵課の肉豚生産出荷予測によると、4月の出荷見込頭数は1,373千頭（前年同月比100%）となっている。その後は5月1,333千頭（〃107%）、6月1,333千頭（〃103%）と予想されている。豚肉相場は堅調。豚流行性下痢（PED）の影響により出荷が減り需給が引き締まる。

鶏卵情勢

鶏卵相場関係

■Mサイズ基準値

平成28年4月215円（見込み）95%（前年比）

（単位：円）

価格の推移

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
26年-27年(A)		223	204	199	190	192	231	240	242	248	192	209	219	216
27年-28年(B)		227	230	223	213	219	247	250	252	255	182	209	215	227
(B-A)		4	26	24	23	27	16	10	10	7	▲10	0	▲4	11
全国基金	26-27年	0	0	0	2.088	0	0	0	0	0	2.907	0	0	
補填	27-28年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13.005	0	0	

■価格動向：3月の平均単価は215円（前年同月－4円）となり、平成27年4月～平成28年3月期平均は227円（前年同期比＋11円）であった。

■出荷動向：気温の上昇で鶏の産卵率が上がり卵重が増え、生産量が増える見通し。

■需要動向：学校給食の再開やゴールデンウィーク向けの需要が増える。

卵価要因

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
加工卵輸入	26-27年	2,286	2,314	2,393	2,427	2,137	1,974	2,273	1,877	2,192	2,090	2,542	2,231	26,713
実績(t)	27-28年	2,449	1,888	2,307	1,979	1,803	1,794	2,574	2,196	2,476	2,352			21,818
前年比(%)		107.1	81.6	96.4	81.5	84.4	90.9	113.2	117.0	113.0	112.5			81.7
餌付羽数	26-27年	8,205	8,291	8,405	8,408	7,048	8,622	8,071	7,369	8,295	7,941	7,764	8,734	97,153
(千羽)	27-28年	7,872	8,422	8,640	8,375	7,263	8,244	8,418	7,716	8,547	7,765	8,075		89,337
前年比(%)		95.9	101.6	102.8	99.6	103.1	95.6	104.3	104.7	103.0	97.8	104.0		92.0

■価格の推移

- (1) 17年:204円 (2) 18年:184円 (3) 19年:169円 (4) 20年:193円 (5) 21年:175円 (6) 22年:194円 (7) 23年:188円 (8) 24年:181円 (9) 25年:207円 (10) 26年:216円

■原料情勢

①とうもろこし（シカゴ定期）

3月9日の米国農務省需給見通しでは、米国とうもろこしの2014/15年産は、供給量、需要量ともに見通しに変更は見られなかった。

2015/16年度についても、単収(168.4ブッシェル/エーカー)および供給量(15,382百万ブッシェル)と据置で見通され、需要面でも、需要量(13,545百万ブッシェル)および期末在庫率は、13.56%と据置で見込まれている。

シカゴ定期は、2月25・26日に行われた米国農務省アウトトラックフォーラムにおいて、これから作付け時期を迎える2016/17年度産について、作付面積は2015/16年度産の作付面積から2百万エーカー増加する90百万エーカーが見込まれたため、発表直後の相場は軟調に推移した。作付面積増加見通しの背景としては、とうもろこしの相場は低水準で推移しているものの、農家の損益としてみた場合、大豆よりはよいと判断され、作付面積は増加すると見込まれた。また、連作障害対策としてとうもろこしと大豆の作付けを交互に繰り返すということから考えても、2016/17年度産については元々とうもろこしの作付けに回帰しやすい環境でもあったという見方もある。

アウトトラックフォーラムを受けて一旦は下落した相場も、買戻しのタイミングを待っていた市場関係者の買いにより、再び上昇に転じている。今後は3月末に発表される作付意向調査の結果などが相場の変動要素と考えられるが、売り越しポジションで買戻しのタイミングを窺っているファンドの存在から、ささいな要素であろうと

も相場が上昇しやすい環境となっていると思われる。短期間で上下に変動しつつ、新規相場材料の登場を待つ展開が見込まれる。直近5月限は370セント/ブッシェル前後で推移している。

②大豆粕

3月9日発表の米国農務省需給見通しによると、米国大豆の2015/16年産について、供給量は前回発表からサウスカロライナ州において生産量の下方修正から微減し、4,150百万ブッシェルとなった。需要量は大豆粕の国内需要減退を背景に搾油需要が10百万ブッシェル減少し、3,690百万ブッシェルとなった。期末在庫は先月から10百万ブッシェル増加し、460百万ブッシェルとなり、在庫率も12.47%と先月の12.16%から増加した。

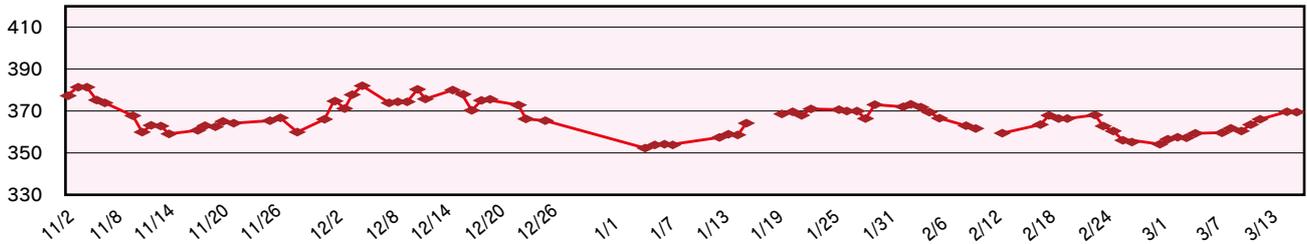
大豆粕のシカゴ定期は、収穫期を迎えた南米の天候、売り越しを積み上げている投機筋のポジション動向、および中国を中心とした消費国の需要動向に影響されながら推移している。3月限は270ドル台前後で推移している。

■海上運賃

直近の米国ゴルフ～日本間のパナマックス型運賃は、中国向けに大豆輸送の引き合いが出てきていることから、前月に引き続き底堅く推移している。今後も、中国による南米産新穀大豆輸送の動向と、産油国による原油強調減産の影響で上下する原油相場の動向には注意が必要である。

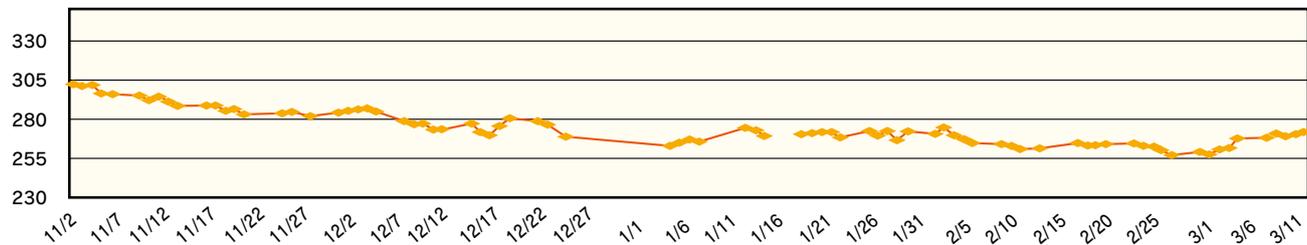
セント/ブッシェル

トウモロコシ 期近限月



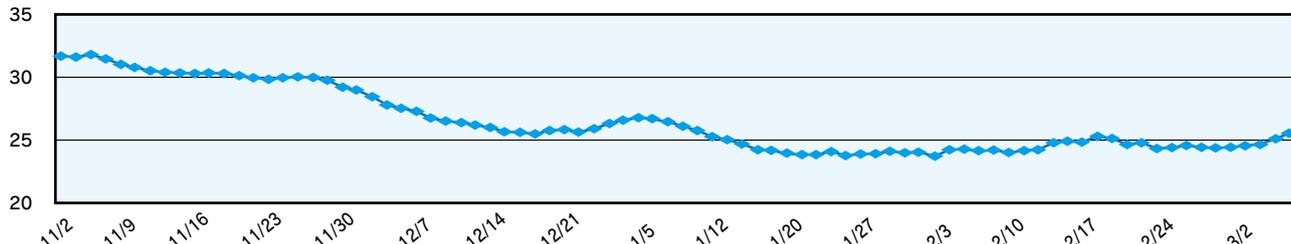
セント/ブッシェル

大豆粕 期近限月



ドル/トン

【海上運賃】



花木流通センター-便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！



花木流通センターでは、今年も「ゴールデンウィーク菜園フェア」を開催します！国府果菜苗組合による約80種類の豊富な野菜苗と苗の生育に必要な商材を豊富に取り揃え、皆様のご来店をお待ちしております。そして、「ふらわーらんど」では母の日に向け、色とりどりの花を大量入荷いたします。大切なお母さんへのフラワーギフトに、ぜひご利用ください。

5月の売出し・イベント案内

色々な売出しやイベントが目白押し。ぜひお出かけください！

開催日	内容
4月29日(金) ～5月8日(日)	ゴールデンウィーク 菜園フェア
5月7日(土) ～8日(日)	母の日フェア
5月15日(日) 10:00～	栽培講習会(さつまいも・ネギ)
5月21日(土) 22日(日) 両日 10:00～	栽培講習会 (なす・きゅうり・トマトの仕立て方) 【参加費無料・申込み不要】

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。



花と緑あふれる広場 KABOKU 花木流通センター

営業時間:年中無休/9:00～18:00

(節電のため7月～2月毎週火曜日定休)

取扱商品

■園芸資材館/営農・園芸資材等 ■ふらわーらんど/鉢花、花苗等 ■JA植木コーナー/緑花木、盆栽等 ■エクステージ/外構・造園工事等 ■ブランド野菜館/産直野菜、農産加工品等 ■外売場/野菜苗、大型肥料・用土、植木鉢等



お問い合わせ先

前橋市亀里町1307-1
TEL:027-220-2427
FAX:027-220-2424

やさいひろば JA直販 愛菜館

営業時間:毎週火曜日定休/9:00～18:00

取扱商品

■産直野菜
農産加工品/店頭精米等



お問い合わせ先

前橋市古市町106-1
TEL:027-210-7788
FAX:027-210-9811

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

《あて先》

〒379-2147 群馬県前橋市亀里町1310番
「県本部通信」係まで

E-mail : info-gunma@gm.zennoh.or.jp
※JAメール等でも結構です。

プレート
キャンバスに
見立てて

Art Cooking

Food adviser - 石垣 恵美

1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。



ごぼう天

材 料

2人分 (1人分366cal)

ごぼう…………… 細1本
豆腐…………… 50g
ねぎ(葉)…………… 1/2本
はんぺん…………… 2枚
白みそ…………… 大さじ1
酒…………… 小さじ1
卵白…………… 1/2個
片栗粉…………… 大さじ2
小桜えび…………… 3g
揚げ油…………… 適量

作り方

- 1 ごぼうの皮をこそげとる。ボウルに酢水を作り、ささがきにしたいごぼうを浸しアク抜きする。
- 2 豆腐は布巾に包んで絞り、水を切る。
- 3 ねぎは小口切りにする。
- 4 はんぺんと豆腐はフードプロセッサーで攪拌する。
- 5 4に白みそ・酒・卵白・片栗粉を入れよく混ぜる。ここへごぼう・ねぎ・小桜えびを加え混ぜる。
- 6 揚げ油を160℃～180℃に熱し、スプーンで形を作った5をきつね色に揚げる。
- 7 お皿に乗せ、好みで塩をかける。